

進捗状況の概要

○組織整備

本事業の目的を達成するために、平成 27 年 9 月に AP 推進協議会を設置するとともに、「服装学部 USR 推進室」を「服装学部・現代文化学部 USR 推進室」に改組して人員を増加し、AP 対応ワーキンググループを設置した。AP 推進協議会を設置したことで、教育プログラムに関する意思決定を円滑に進められるようになり、AP 対応ワーキンググループを設置したことで、より円滑かつ効率的に本プログラムの計画を遂行できるようになった。

平成 27 年 10 月に TOEIC800 点以上のスタッフを人材派遣会社に依頼し、10 月から事務スタッフとして雇用した。これにより、本事業推進にかかわる事務作業や海外の現地教員らとの連絡などが円滑に行われ、本事業を推進することが可能となった。

平成 27 年 11 月に本事業の推進体制整備のためにファッションマネジメント分野の教員公募を行い、平成 28 年 4 月より雇用することが決定し、本事業の推進体制を整えた。

○カリキュラム変更及び単位化

本事業の 1・2 年次学外学修プログラムをカリキュラム化するにあたって、学部横断的に履修可能な「コラボレーション科目」に組み込み、大学全体で取り組むことを可能にした。

さらに現行カリキュラムのなかで平成 28 年度の梅春学期を試験的に実施するにあたり、国内外研修計 3 科目を「コラボレーション科目」として導入した。これによって学生は単位として履修できるようになった。

○情報公開

本プログラムの学内外での周知を図る目的で平成 28 年 1 月に海外インターンシップ報告会を実施し、報告書の作成も行った。報告会には学内外から約 50 名の参加者があり、活発な議論が行われた結果、次年度以降のための示唆を得ることが出来た。

本プログラムを学外への周知を拡げるためのホームページを開設した。学内に対しては、ポスターやパンフレット、ウェブサイトを中心とする広報活動を実施した結果、梅春学期に対する問い合わせがあるなど、次年度の梅春学期関連科目への参加意識が高まりを見せた。

○海外事業

平成 27 年 11 月にオーストラリアを訪問し、平成 28 年度の梅春学期の試験的实施をシドニーの Raffles College of Design and Commerce に絞り込んだ。

平成 28 年 2 月にオーストラリアを訪問し、Whitehouse Institute of Design と提携を締結した。また、TAFE Queensland Brisbane とは新たな覚書を締結し、協定書についての議論を行った。さらに、Raffles College of Design and Commerce と協議を行い、梅春学期の具体的プログラムを協議したうえで、試験的实施計画を完成させ、学生が参加できるよう環境を整えた。

平成 29 年度実施予定のニューヨークでの梅春学期開催に向けての調査を平成 28 年 3 月に前倒して行った。

○国内事業

ファッションや繊維に関する伝統・文化企業を AP ワーキンググループで検討、AP 推進協議会で審議を行い、プログラム実施のための候補先を選定した。平成 28 年度の梅春学期試験的实施の対象として岩手県久慈市岩手モリヤ株式会社、長野県飯山市観光局との交渉を進め、実施が決定した。

また、山形、新潟、岡山の企業とのヒアリングを行い、平成 29 年度の梅春学期実施プログラムとしての可能性を見いだすことができた。